

「誰を優先すればいい？」

大阪教育大学

藪田 直子

多様性・ダイバーシティについて考える授業を担当しています。大学生からコメントをもらうと、多様性尊重に對して「行き過ぎると良くない」、「收拾がつかなくなる」という意見が出てきます。確かに、多様な者たちがスペースや資源を分け合いながらひとつの社会で共存していくには、どのように合意するか、結論はどうするのか？ということとは重要です。

例えば多数の車いすユーザーが一つの電車に乗降しようとした場合を考えてみましょう。今の社会の条件やシステムでは、かなり時間がかかってしまうのではないのでしょうか。朝のラッシュ時なら？私たちは誰の移動の権利を優先すればいいのでしょうか？私から質問しておいて、失礼ですが、そんなのは決められない。応えるなら「みんな同じ」、「全員を優先しなくちゃ」と

なります。それが人権尊重・ダイバーシティ尊重だからです。すると、「全員に合わせるなんてできる？」、「どうやって？」と、諦めモードになる人もいるかもしれません。だから「行き過ぎると收拾がつかない」と不安になる感性も理解できます。確かにこれは難問です。誰に合わせるか、誰を優先するかという感覚でいると、解決しない。

多様な人、それぞれの事情、バラバラな意見の中で、「誰に合わせればいいの？」。そうではなく、「どういうルールなら“今の”“みんな”に合うだろう？」と問う。今ある仕組みをどのように変えれば、車いすの人“も”乗り降りしやすいかな？と想像し、創造をすることが必要です。優先する人を代えるのではない、そもそもルールやシステムを変えればいい。ユニバーサルデザインというアイデアがありますが、それと似ていると考えています。しかも創り変えたシステムは決定版ではな

い。この絶え間ないプロセスこそがダーバースィティの尊重です。